

総務関係



消防出初式
(新水槽付消防ポンプ自動車 分列行進の様子)

根室市消防の歩み

西 曆	年 号	事 項
1875年	明治 8年	町内有志により私設消防隊設立。元締鈴木松吉
1878年	明治11年 3月 5日	警察署長が私設消防隊の指揮を命じられる。
1879年	明治12年 1月27日	出火、その他非常警戒にかかわる号鐘の打数を定める。
1880年	明治13年 4月 1日	820円40銭の官費をもって消防組を設置
1881年	明治14年 9月20日	根室市街消防組規則制定 組員60名。組頭に嵯峨啓藏 就任
1882年	明治15年 6月12日	花咲学校に間借りの根室県仮庁舎、全焼する。
1883年	明治16年 4月 1日	公設消防組に改組 西組、南組の二部制 西部頭取嵯峨 啓藏 南部頭取廣瀬勝次就任
1886年	明治19年12月30日	花咲町1丁目より出火。150戸焼く。
1891年	明治24年 5月 1日	弥生町1丁目より出火。2、3丁目に延焼し193戸を焼 き、千島樓を除き遊廓全滅する。
1894年	明治27年 3月22日	勅令消防組規則の公布 西南両部を統合し公設根室消 消防組に改組 三番組制で各番小頭1名組員50名によ り組織 初代消防組頭嵯峨啓藏就任 午後7時20分大地震発生、住民屋外に二昼夜避難 (被災戸数877戸、建物破損39棟、土蔵破損33棟、石 蔵・煉瓦蔵破損5棟、負傷者4名、4月11日までの震 動回数402回、うち強震10回、弱震109回、微震283 回)
1895年	明治28年10月 3日	午前4時花咲町1丁目明治屋より出火。午前8時鎮火。 弥生町、緑町、清隆町、弥栄町、常盤町、花咲町、梅ヶ 枝町、平内町を焼く。(焼損棟数634棟、889戸)
1897年	明治30年12月20日	午前5時本町3丁目呉服店より出火。午前10時鎮火。 本町、梅ヶ枝町、花咲町、常盤町、松ヶ枝町、有磯町、 鳴海町、緑町に延焼する。(焼失棟数497棟、663戸、 倉庫3棟、物置4棟)
1910年	明治43年11月30日	従来、消防組のほか私設夜警番が各所設けられていたが 道庁令に基づき火災予防組合に改める。
1913年	大正 2年	消防組を部制に改める。組頭に嵯峨啓藏、第1部部長に 中村房太郎、第2部部長に杉山佐市、第3部部長に奥村 善藏就任
1920年	大正 9年 7月10日	根室銀行より蒸気ポンプ1台寄贈 鳴海町畳店より出火。87戸焼く。
1922年	大正11年 11月21日	3番組制を4部制に編成 2代目消防組頭川村省三就任 手曳ガソリンポンプ2台購入 弥生町3丁目旅館より出火。108戸焼く。
1923年	大正12年11月29日	弥生町9丁目遊廓加茂川樓より出火。187戸焼き4人焼 死する。
1924年	大正13年 4月	3代目消防組頭田渕幸次郎就任

西 暦	年 号	事 項
		T型フォードノーザン式自動車ポンプ1台購入し、第1部に配置
	6月30日	午前3時頃本町3丁目根室郵便局より出火。57戸焼く。
	7月1日	T型フォード自動車に市原式タービンガソリンポンプを積載して第2部に配置し、運転手1名を常備
1926年	大正15年12月25日	第1部に小頭1名、消防手5名を常備員として配置 第2部に第1部と同型の自動車ポンプを配置し、常備運転手1名配属
1928年	昭和3年	ダッチブラザー自動車市原式タービンポンプ1台を購入して第3部に配置し、小頭1名消防手5名を常備員として配置
1931年	昭和6年9月19日	ダッチブラザー市原式タービンポンプ自動車1台を購入して第1部に配置。第1部のT型フォードノーザン式自動車ポンプを第4部に配置替えし、運転手1名を採用
1935年	昭和10年11月25日	各部に自動車ポンプの配置を完了し半常備体制を確立
1936年	昭和11年12月17日	緑町2丁目第二朝日館より出火。47棟焼く。
		花咲郡歯舞村に公設歯舞消防組創設
1937年	昭和12年4月1日	第1部(弥生町)、第2部(緑町)、第3部(朝日町)、第4部(鳴海町)の番屋を廃止 朝日町2丁目9番地に消防庁舎を新築(木造モルタル2階建170坪、鉄骨望楼高さ15m)し、集合体制を採用
1938年	昭和13年3月10日	4代目消防組頭小林惣吉就任
	4月1日	根室郡和田村に公設和田村消防組創設
1939年	昭和14年3月	組織の一部を改編し、常備消防本部創設 常備消防本部長に石月石五郎就任
	4月1日	碓氷勝三郎氏より1938年式V8フォードコンマシャルシャシーに大阪森田ポンプを架装の自動車ポンプ1台寄贈。碓氷号と命名
	4月16日	勅令警防団令施行。警防団を編成。初代警防團長碓氷勝三郎就任。警防團長の下に団本部事務を扱う常備消防本部、東部管轄の第1分団、西部及び花咲地区管轄の第2分団を配置
	10月20日	勅令により和田消防組を和田警防団に改称。(定員135名)初代警防團長に能戸直太郎就任
	11月16日	勅令により歯舞村警防団結成(定員241名)大高伝之助警防團長就任
1943年	昭和18年4月1日	38年式フォード消防ポンプ車購入
1944年	昭和19年6月30日	千島町2丁目民家より出火。78戸焼失、焼死者2名
	7月1日	2代目警防團長に兼古萬吉就任 3代目警防團長に川端元治就任 大東亜戦争の鮮烈化のため道庁長官指令に基づき芽室、

西 曆	年 号	事 項
	8月 1日	池田、常呂各町より自動車ポンプ各1台を応援配置
1945年	昭和20年 7月15日	常備消防本部を常備消防分団に改称し、分団長南野三郎 就任。水上分団を配置し分団長高坂勝三就任
1947年	昭和22年 4月30日	米軍機の空襲により消防庁舎焼失し、本部を千島町に 移転。常備消防団員3名、第2分団団員2名殉職
	5月 1日	勅令警防團令廃止。消防團令（勅令185号）が公布施行
	8月25日	歯舞村警防団を歯舞村消防団に改編し、3分団制を施行 （消防団定員125名）
	9月 1日	消防団設置条例施行。警防団を消防団に定員136名3分 団制で改組。初代消防團長濱元嘉一就任。常備本部長 横山重則就任
1948年	昭和23年 3月 7日	和田村警防団を和田村消防団に改編し、3分団制を施行 （消防団定員150名） 団長に上野正二就任。
	4月 1日	消防組織法施行
1949年	昭和24年 8月27日	空襲により焼失した本部跡に有志の寄付金により庁舎 を復旧（木造トタン葺一部2階建延90坪）
1950年	昭和25年 4月 1日	2代目消防團長に竹原長次郎就任
		消防組織法に基づき常備消防本部を改組して消防本部 を設置。非常勤初代消防長に2代目消防團長竹原長次郎 が兼ねて就任。総務、予防、警防3係制 定員22名 自動車ポンプ2台
1951年	昭和26年 5月 1日	根室町消防団、団本部、第1分団、第2分団、第3分団 定員105名 自動車ポンプ3台
	6月 8日	花咲港に分遣所設置 消防士1名派遣
	7月 5日	非常勤2代目消防長高本正一就任
		花咲港消防分遣所の車庫を花咲港68番地に仮設 分団常置の三輪ポンプ車1台を配置。夏季に消防ポン プ車1台を配置し、職員1名を出向
1952年	昭和27年 6月 3日	3,000ℓ 水槽付大阪森田式タービンポンプ自動車を町 民の寄附により購入
	11月 7日	花咲港100番地に旧女学校宿舎を移設改修し、花咲港 消防分遣所を移転開設。消防ポンプ車1台を配置し、 職員1名配属（夏季は職員1名増員）
	8日	3代目消防團長嶋津豊就任
1954年	昭和29年 1月 1日	消防本部に消防署併置。初代消防署長に横山重則消防 本部長就任
	5月10日	大暴風雨根室地方を襲う船舶乗組員191名遭難死亡、 被害総額7億円
1955年	昭和30年10月10日	集中豪雨のため浸水400戸、災害救助法発動
1956年	昭和31年10月15日	大雨による水害で1,719名が罹災
1957年	昭和32年 8月 1日	和田村と合併し市制施行 根室町消防本部、消防署を根

西 曆	年 号	事 項
1958年	9月 6日	室市消防本部、消防署に改称（職員定数 26 名）
	11月 1日	根室市消防団を定員 225 名 6 分団に編成
1959年	昭和33年 6月 1日	消防ポンプ自動車（前進号）を購入
	昭和34年 4月 1日	消防ポンプ自動車（指揮車）を購入
1960年	昭和35年 5月 24日	厚床に分遣所設置。署員 1 名を常置し自動車ポンプ 1 台を地区分団に配置
	昭和35年 10月 28日	厚床に分遣所設置。署員 1 名を常置し自動車ポンプ 1 台を地区分団に配置
1961年	昭和36年 7月 1日	歯舞村と合併し、根室市消防団を定員 350 名 9 分団に編成。上水道工事が完了し消火栓 105 基設置
	昭和36年 10月 28日	4 代目消防團長柿内亮就任
1962年	昭和37年 5月 24日	消防ポンプ自動車（飛躍号）を購入
	昭和37年 10月 30日	チリ沖地震の津波で道東、大被害（死者 11 名、行方不明 41 名、漁船沈没 296 隻）
1963年	昭和38年 11月 19日	歯舞に分遣所設置。署員 1 名を常置し消防ポンプ自動車 1 台を地区分団に配置
	昭和39年 12月 25日	消防ポンプ自動車（納沙布号）を購入し、歯舞消防分遣所に配置
1964年	昭和40年 1月 20日	消防ポンプ自動車（花咲号）を購入し、花咲港消防分遣所に配置
	昭和40年 2月 11日	荒俣正一氏より消防ポンプ自動車 1 台寄贈。荒俣号と命名し第 2 分団に配置
1965年	昭和40年 7月 16日	日本消防協会より優良消防団として表彰旗授与
	昭和40年 12月 15日	日本損害保険協会より消防ポンプ自動車 1 台寄贈
1966年	昭和41年 12月 15日	消防本部庁舎新築（鉄筋コンクリート 3 階建延 613.3 7 m ² 望楼高さ 22.4m）
	昭和41年 4月 1日	根室市危険物安全協会発足
1967年	昭和41年 9月 25日	消防ポンプ自動車（はやて号）を購入
	昭和42年 8月 8日	消防無線（中短波無線機）新設（基地局 1 基、移動局 2 基）
1968年	昭和42年 3月 25日	根室漁業協同組合鮭鱒部会より水槽付消防ポンプ自動車 1 台寄贈 鮭鱒号と命名（水槽 2,500 ℓ）
	昭和43年 11月 20日	厚床消防分遣所を厚床 1 丁目 38 番地に移転新築（木造モルタル 2 階建 延 148.73 m ² ）
1969年	昭和43年 大正町 1 丁目 30 番地に釧路財務事務所（現消防庁舎）が建築される。	
	昭和43年 4月 29日	第 9 分団副分団長 高橋健治郎「勲 7 等瑞宝章」受章
1970年	昭和44年 9月 1日	救急業務開始（職員定数 41 名）
	昭和44年 6日	救急車（日産セドリックワゴン）を購入
1971年	昭和45年 11月 7日	水槽付消防ポンプ自動車（歯舞号 水槽 2,500 ℓ）を購入
	昭和45年 20日	花咲港消防分遣所を花咲港 366 番地に移転新築（木造モルタル 2 階建 延 168.56 m ² ）

西 曆	年 号	事 項
1968年	昭和43年12月27日	15m級屈折はしご付消防ポンプ自動車(根室市信金号)を購入(500万円根室信用金庫寄附)
1969年	昭和44年10月15日 11月3日	5代目消防團長山田文吉就任 消防團長 山田文吉「勲6等旭日章」受章
1970年	昭和45年4月1日 11月1日	6代目消防團長高本正一就任(兼務) 齒舞消防分遣所を齒舞4丁目40番地1に新築 (木造モルタル2階建 延214.83㎡)
1971年	昭和46年8月16日 10月1日 11月25日	落石消防團員詰所を落石260番地2に新築(落石西町内会館含 木造モルタル平屋建 延174.96㎡) 第2代消防署長に吉田理喜三消防署次長就任 日本損害保険協会より水槽付消防ポンプ自動車1台寄贈。損保号と命名(水槽1,600ℓ)
1972年	昭和47年11月3日	元消防司令 高崎辰雄「勲6等単光旭日章」受章 消防司令補 二瓶 傳「勲6等瑞宝章」受章
1973年	昭和48年6月1日 17日	釧路トヨタ自動車販売(株)より救急車1台寄贈 根室半島沖地震発生(震度5 マグニチュード7.4 被害総額18億円)
1974年	昭和49年1月2日 3月20日 4月20日 9月20日	故消防司令 辻 利一「従7位 勲6等瑞宝章」受章 消防無線(超短波無線機)増設 永宝冷蔵(株)より消防指揮車1台寄贈。永宝号と命名 落石漁業協同組合より水槽付消防ポンプ自動車1台寄贈。落石号と命名し落石消防團員詰所に配置 (水槽1,500ℓ)
1975年	昭和50年11月3日 6月1日 9月1日	第9分団部長 田口定雄「勲7等旭日章」受章 消防本部の組織を総務、警防の二課制に改める。 (職員定数53名) 3代目消防長に吉田理喜三消防本部次長就任 (消防署長事務取扱)
1976年	昭和51年10月24日	水槽付消防ポンプ自動車I-A型(厚床号 水槽1,500ℓ)を購入し、厚床消防分遣所に配置
1977年	昭和52年8月31日 11月15日	新星商事(株)より救急車2B型寄贈。新星号と命名 水槽付消防ポンプ自動車I-A型(齒舞号 水槽1,500ℓ)を購入し、齒舞消防分遣所に配置
1978年	昭和53年12月25日	日本損害保険協会より救急車2B型寄贈。あさひ号と命名
1979年	昭和54年8月24日	消防ポンプ自動車CD-II型(根室号)を購入し、第1団に配置
1980年	昭和55年11月3日 4月1日 9月9日	元消防署長 横山重則「勲5等双光旭日章」受章 第3代消防署長に曾又啓次消防本部次長兼務就任 消防ポンプ自動車CD-II型(ときわ号)を購入し、第2分団に配置

西 曆	年 号	事 項
1980年	昭和55年12月 1日	第4代消防長に曾又啓次消防本部次長就任（消防署長事務取扱）
1981年	昭和56年 4月 1日	第5代消防長に白土 晃消防本部次長就任（消防署長事務取扱）
	5月31日	24時間の望楼監視勤務廃止
	8月12日	水槽付消防ポンプ自動車Ⅰ-A型（花咲号 水槽1,500ℓ）を購入し、花咲港消防分遣所に配置
1982年	昭和57年 8月 1日	根室市幼少年婦人防火委員会発足
1983年	昭和58年 4月29日	副団長 山崎 茂「勲6等単光旭日章」受章
	5月26日	広報車を購入
	6月27日	厚床消防分遣所増築（木造防火サイディング17.45㎡）
	8月23日	消防ポンプ自動車CD-II型（ほくと号）を購入
1984年	11月 3日	元第8分団長 大島重男「勲6等瑞宝章」受章
	昭和59年 4月 1日	第6代消防長に阿部和正市福祉事務所長就任 第5代消防署長に西田宏吉総務課長就任 消防団定員335名に改正 根室市婦人防火クラブ連絡協議会発足
	8月 4日	根室市危険物安全協会より防火査察車の寄贈を受ける。
1985年	昭和60年 3月29日	カネヒロ広田商店(株)より消防指令車1台寄贈。カネヒロ号と命名
	10月 4日	故消防司令 高崎辰雄「叙位 従7位」受章
	22日	日本損害保険協会より水槽付消防ポンプ自動車Ⅰ-A型1台寄贈。火災保険号と命名（水槽1,700ℓ）
1986年	昭和61年 4月 1日	消防団長定年制施行 第7代消防団長に成田慶治就任
	7月 1日	消防署の組織を副署長2名制に改める。 （職員定数54名）
	11月 3日	元第7分団長 久保田義美「勲6等瑞宝章」受章 元消防長 曾又啓次「勲6等単光旭日章」受章
1987年	昭和62年 4月 1日	第7代消防長に瀧本俊朗市建設部長就任 第8代消防団長に岡田政司就任 消防団副団長以下定年制施行
	9月17日	水槽付消防ポンプ自動車Ⅱ型（北翔号 水槽2,000ℓ）を購入
	10月26日	消防庁舎増築（木造サイディング102.06㎡）
1988年	昭和63年 2月 1日	日本自動車工業会より救急車2B型寄贈
	9月26日	救急車2B型（4WD 国際ソロプチミスト根室号）を購入（200万円国際ソロプチミスト根室寄附）
	11月 3日	元副団長 矢部博之「勲6等瑞宝章」受章
1989年	12月16日	消防庁舎車庫増築（鉄骨造一部2階建404.74㎡）
	平成 元年 4月 1日	消防本部、消防署の機構改革実施

西 曆	年 号	事 項
1989年	29日	元消防団長 成田慶治「勲5等瑞宝章」受章
	平成 元年 11月14日	20m級屈折はしご付(3節)消防ポンプ自動車を購入
1990年	22日	救助訓練塔建設(鉄骨造 高さ12m)
	12月13日	根室市危険物安全協会より防火査察車1台寄贈。防火パトカーと命名
	平成 2年 4月 1日	第8代消防長に嶋 忠雄市立根室病院事務長就任 第9代消防団長に赤川三郎就任
1991年	29日	元消防団長 高本正一「勲5等双光旭日章」受章
	11月 3日	元副団長 岡本達雄「勲6等単光旭日章」受章
	平成 3年 1月19日	水槽付消防ポンプ自動車II型(飛龍号 水槽7,000ℓ)を購入
	9月 9日	広報車(4WD)を購入
1992年	10月30日	全国消防長会第36回救急委員会を根室グランドホテルで開催
	12月18日	救助工作車II型を購入
	26日	消防緊急通信指令施設を設置
	平成 4年 11月 3日	元第8分団長 奥地貫一「勲6等瑞宝章」受章
1993年	平成 5年 1月15日	釧路沖地震発生(震度4 マグニチュード7.8 住宅等一部損壊等の被害)
1994年	11月10日	化学消防ポンプ自動車II型を購入
	平成 6年 4月 1日	第9代消防長に西田宏吉消防本部次長就任(職員定数62名) 第10代消防団長に田仲照夫就任 第6代消防署長に白崎紘司警防課長就任
	7月23日	根室市危険物安全協会より防火査察車寄贈。防火パトカー2と命名
1995年	10月 4日	北海道東方沖地震発生(震度5 マグニチュード8.1 被害総額178億円)
	平成 7年 4月29日	元消防団長 岡田政司「勲5等瑞宝章」受章
1996年	10月19日	花咲港消防分遣所を花咲港366番地5に新築(木造防火サイディング2階建 延217.62㎡)
	平成 8年 3月14日	高規格救急自動車(4WD 電子制御式4速オートマチック)購入(根室ロータリークラブ、根室西ロータリークラブより各500万円寄附)
	15日	水槽付消防ポンプ自動車II型(花咲号 水槽6,500ℓ)を購入し、花咲港消防分遣所に配置
1997年	4月29日	元消防団長 赤川三郎「勲6等単光旭日章」受章
	8月 1日	女性消防団員を導入。団本部付10名採用
	12月26日	根室市防災ヘリポート開港。市企画振興部から所管替え
	平成 9年 4月 1日	第10代消防長に菅原秀敏市保健福祉部長就任(職員定数71名)

西 曆	年 号	事 項
1997年	平成 9年 6月 6日	第 11 代消防団長に菅野信男就任
1998年	平成10年 4月 29日	第 49 回北海道消防大会を根室市総合文化会館で開催
	5月 28日	元副団長 大山 清「勲 6 等単光旭日章」受章
	7月 1日	全国消防長会第 42 回危険物委員会を根室グランドホテルで開催
1998年	平成10年11月 20日	消防署の組織を改める（救急隊専任化 専任隊員 9 名）
	30日	救急救命士による救急業務運用開始（救急救命士 2 名）
		厚床消防分遣所を厚床 1 丁目 37、38 番地に新築 （木造防火サイディング 2 階建 延 278.36 m ² ）
1999年	平成11年 4月 29日	元副団長 矢部健三「勲 6 等単光旭日章」受章
	12月 24日	消火、通報訓練指導車「けすゾウくん」市総務部から所管 替え
2000年	平成12年 4月 1日	第 11 代消防長に近松正吾市立根室病院事務長就任 （職員定数 71 名）
		消防本部、消防署の組織機構を改める。
	4月 26日	有珠山噴火に伴い北海道広域消防相互応援協定による応援 隊を伊達市に派遣（4 日間） （車両 2 台・職員 5 名）
	5月 27日	水槽付消防ポンプ自動車Ⅱ型（厚床号 水槽 6,500ℓ）を 購入し、厚床消防分遣所に配置
	11月 3日	元副団長 飯澤種彦「勲 6 等単光旭日章」受章
2001年	平成13年 3月 26日	歯舞消防分遣所を歯舞 4 丁目 40 番地に新築 （木造防火サイディング 2 階建 延 288.18 m ² ）
	4月 1日	第 12 代消防長に白崎紘司消防本部次長就任（職員定数 72 名）
		第 7 代消防署長に柿崎直嗣消防本部総務課長就任
	4月 29日	元第 8 分団長 藤島昭一「勲 6 等瑞宝章」受章
2002年	平成14年 2月 21日	財団法人 日本消防協会より司令車 1 台寄贈（4WD）
2003年	平成15年 4月 29日	元副団長 中村 茂「勲 6 等単光旭日章」受章
2004年	平成16年 4月 1日	第 13 代消防長に柿崎直嗣消防本部次長就任（職員定数 72 名）
		第 12 代消防団長に高橋貞男就任
		第 8 代消防署長に武田静夫副署長就任
	4月 29日	元消防団長 菅野信男「瑞宝双光章」受章
	6月 24日	根室市危険物安全協会より防火査察車 1 台寄贈。防火 パトカーと命名
2005年	平成17年 4月 1日	第 14 代消防長に竹原賢一郎教育委員会教育部長就任（職員 定数 72 名）
	11月 9日	元副団長 宮下 繁「瑞宝単光章」受章
2006年	平成18年 4月 1日	第 15 代消防長に武田静夫消防本部次長就任（職員定数 72 名）
	4月 1日	第 9 代消防署長に加藤義則警防課長就任
	12月 27日	日本損害保険協会より高規格救急自動車 1 台（4WD） 寄贈（備品購入費の一部、消防設備整備基金より）

西 暦	年 号	事 項
2007年	平成19年	4月1日 職員定数条例改正（職員定数70名）
		8月1日 元第8副分団長 長山誠一「瑞宝単光章」受章
		10月3日 全国共済農業協同組合連合会北海道本部より救急自動車1台（4WD）寄贈（備品購入費の一部、消防設備整備基金より）
		11月3日 元副団長 倉又 博「瑞宝単光章」受章
		12月27日 水槽付消防ポンプ自動車II型（歯舞号 4WD 水槽3,000ℓ クラスA自動泡混合装置付）を購入し、歯舞消防分遣所に配置（備品購入費の一部、消防設備整備基金より）
2008年	平成20年	4月1日 第16代消防長に加藤義則消防本部次長就任（職員定数70名）
		9月18日 第10代消防署長に織田勝洋消防本部総務課長就任
		9月24日 落石消防団員詰所を落石東391番地1に移転新築（木造防火サイディング平屋建 延77.84㎡）
2009年	平成21年	消防ポンプ自動車CD-I型（落石号4WD 水槽600ℓ ハイルフCAFS仕様）を購入し、落石消防団員詰所に配置
		4月1日 消防本部、消防署にスタッフ制（グループ制）の導入 署の組織を副署長1名、2課制に改める。 救急専任隊員10名とする。
		4月29日 元副団長 中村美喜男「瑞宝単光章」受章
		5月22日 高性能型油圧救助器具を購入
		9月29日 消防ポンプ自動車CD-I型 2台（根室C-1、根室C-2 4WD水槽600ℓ ハイルフCAFS仕様）を購入
		10月5日 道東ドクターヘリ運航開始（事業実施主体・基地病院市立釧路総合病院）
2010年	平成22年	8月20日 根室市消防団、北海道消防協会長より竿頭綬を受章
		10月18日 広報車（4WD）を購入
2011年	平成23年	3月11日 東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）発生。マグニチュード9.0の巨大地震により、根室市に大津波警報が発令される。
		3月24日 東北地方太平洋沖地震発生に伴い、緊急消防援助隊を石巻市に派遣（2隊7名）
		10月10日 新消防庁舎運用開始。 大正町1丁目30番地の旧市役所第2庁舎を改築し、鉄骨造2階建て車庫（823.26㎡）を増設（延べ1,518.61㎡） 消防緊急通信指令設備、地図検索システムを導入及び仮眠室の個室化を図る。

西 暦	年 号	事 項
2012年	12月26日	根室ロータリークラブ、根室西ロータリークラブより 消防広報車1台寄贈。広報車2と命名
	平成24年 4月 1日	第17代消防長に織田勝洋消防本部次長就任（職員定数 70名） 第13代消防団長に坂江國雄就任 第11代消防署長に宗像 淳消防本部総務課長就任
	8月 1日	元第7分団長 鈴木政雄「瑞宝単光章」受章
	9月 7日	北海道消防協会より優良消防団として表彰旗授与
	11月 3日	元副団長 三戸光雄「瑞宝単光章」受章
2013年	12月 1日	元第3副分団長 重平 護「瑞宝単光章」受章
	平成25年 4月 1日	消防救急デジタル無線運用開始
	4月29日	元団長 高橋貞男「瑞宝双光章」受章
	6月 1日	消防団活動安全化事業として、各分団に救命胴衣及び 携帯型デジタル簡易無線機を配備
	10月 1日	元副団長 山下宏信「瑞宝双光章」受章 元第1分団長 大橋一男「瑞宝単光章」受章
2014年	10月 7日	25m級屈折はしご付（1節3段伸縮）消防ポンプ自動車 を購入
	平成26年 4月 1日	第18代消防長に宗像 淳消防本部次長就任（職員定数 70名） 第12代消防署長に鈴木敏一消防本部総務課長就任
	11月 3日	元副団長 酒井忠男「瑞宝単光章」受章
	12月26日	災害対応特殊水槽付消防ポンプ自動車Ⅱ型（根室水槽1 4WDステンレス製水槽2,000ℓ CAFS仕様）を 購入
	2015年	平成27年 4月29日
2016年	7月 1日	消防署の組織活性化及び体制強化 主幹職（3名）配置
	11月17日	北海道知事より優良消防団として竿頭授受章
	平成28年 1月29日	高規格救急自動車（4WD）購入
	11月 2日	水槽付消防ポンプ自動車Ⅱ型（根室水槽3 4WDステ ンレス製水槽2,000ℓ CAFS仕様）を購入

位 置 ・ 面 積

位 置		広 ぼ う		面 積
東 経	北 緯	東 西	南 北	
東に146度26分25秒	南に43度9分31秒	100.83km	54.75km	506.25km ²
西に145度11分44秒	北に43度39分5秒			

〔注〕 面積は、齒舞群島の面積(99.94km²)を含む。

人 口 ・ 世 帯

調査年月日	区 分	人 口	世 帯 数
平成28年12月31日	男	12,894 人	12,810 世帯
	女	14,124 人	
	合計	27,018 人	

消 防 予 算 及 び 決 算

()は決算を示す。

項 目		年度別	平成27年度	平成28年度
一 般 会 計 (千円)			17,082,000 (19,028,227)	16,812,000
消 防 費 (千円)			704,243 (706,280)	735,219
内 訳	常 備 消 防 費 (千円)		41,510 (43,915)	60,516
	非 常 備 消 防 費 (千円)		47,767 (49,673)	48,471
	消 防 施 設 費 (千円)		60,920 (58,624)	79,678
	関 係 職 員 費 (千円)		554,046 (554,068)	546,554
一般会計に対する消防費の割合			4.1 % (3.7) %	4.4 %
市民1人当たりの消防費 (円)			25,489 (25,563)	27,212
一世帯当たりの消防費 (円)			54,365 (54,522)	57,394

消防力の現勢

1 消防本部・署

区 分		算 定 数	整 備 数	比 率
施 設	署 所	2 署所	2 署所	100.0 %
	消防ポンプ自動車	3 台	3 台	100.0 %
	屈折はしご自動車	1 台	1 台	100.0 %
	化 学 消 防 車	2 台	※ 2 台	100.0 %
	救 急 自 動 車	2 台	2 台	100.0 %
	救 助 工 作 車	1 台	1 台	100.0 %
	指 揮 車	1 台	1 台	100.0 %
	特 殊 車 等	—	3 台	—
	非常用消防自動車	—	—	—
	非常用救急自動車	1 台	1 台	100.0 %
人 員	103 名	69 名	67.0 %	

※ 1台は泡放出装置付消防ポンプ自動車で代替

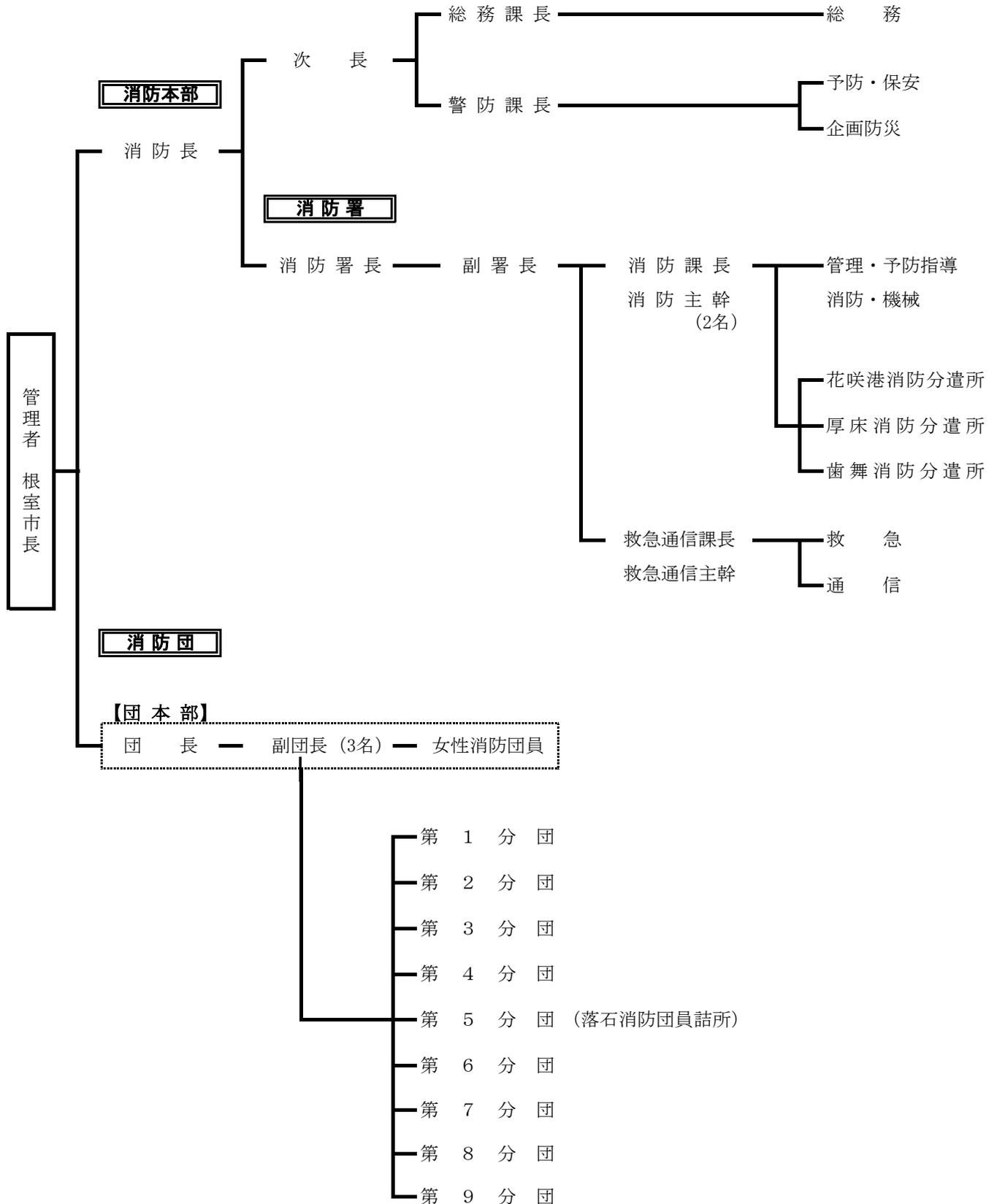
2 消防団

区 分		算 定 数	整 備 数	比 率
施 設	消防ポンプ自動車	6 台	6 台	100.0 %
	小型動力ポンプ	16 台	15 台	93.8 %
人 員	消 防 団 員	335 名	333 名	99.4 %

消防相互応援協定等の状況

協 定 の 概 要	締 結 先	締 結 年 月 日
船 舶 消 火 に 関 す る 業 務 協 定	根 室 海 上 保 安 部	昭和44年2月1日
北 海 道 広 域 消 防 相 互 応 援 協 定	北海道内の市、町及び消防の一部事務組合	平成3年2月13日
北 海 道 消 防 防 災 ヘリコプター 応 援 協 定	北 海 道 知 事	平成8年6月25日

組織機構図



消 防 職 員 数

区分 \ 階級別	司令長	司 令	司令補	士 長	副士長	消防士	合 計
定 数	1	9	16	23	21		70
実 員	1	9	16	23	3	17	69

消 防 職 員 配 置 状 況

配置別 \ 階級別		司令長	司 令	司令補	士 長	副士長	消防士	合 計	
消 防 本 部	消 防 長	1						1	
	次 長		1					1	
	総務課	課 長		1					1
		総務主査			2				2
		総務担当				2		1	3
	警 防 課	課 長		1					1
		予 防 主 査			3				3
		企画防災主査			1				1
		予防・保安担当				2		3	5
		企画防災担当				1		1	2
小 計		1	3	6	5		5	20	
消 防 署	署 長		(1)					(1)	
	副 署 長		1					1	
	消 防 課	課 長		1					1
		消防主幹		2					2
		管理主査			2				2
		消防主査			2				2
		機械主査			2				2
		管理・予防指導 消防・機械担当				10	3	10	23
	救 急 通 信 課	課 長		1					1
		救急通信主幹		1					1
		救急主査			3				3
		通信主査			1				1
		救急担当				6		2	8
	通信担当				2			2	
小 計			(1) 6	10	18	3	12	(1) 49	
合 計		1	(1) 9	16	23	3	17	(1) 69	

()は兼務を示す。

消防職員勤続年数

(平均19.0年)

年数 \ 階級別	司令長	司令	司令補	士長	副士長	消防士	合計
1年未満						3	3
1～5				1		11	12
6～10				3		3	6
11～15				7			7
16～20			2	5			7
21～25			8	7			15
26～30		1	2		1		4
31年以上	1	8	4		2		15
合計	1	9	16	23	3	17	69

消防職員年齢

(平均39.0歳)

年齢 \ 階級別	司令長	司令	司令補	士長	副士長	消防士	合計
18～20						4	4
21～25						9	9
26～30				3		3	6
31～35				6		1	7
36～40				9			9
41～45			8	3			11
46～50		1	6	2	1		10
51～55		5	2		1		8
56歳以上	1	3			1		5
合計	1	9	16	23	3	17	69

消防団員数

区分 \ 階級別	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員	合計
定員	1	3	9	9	11	38	264	335
実員	1	3	9	9	11	38	262	333

消防団員配置状況

階級別 区分		団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員	合計
		団本部	1	3			1	2	7
市街地	第1分団			1	1	1	4	23	30
	第2分団			1	1	1	4	23	30
	第3分団			1	1	1	4	23	30
和田地区	第4分団			1	1	1	4	27	34
	第5分団			1	1	1	4	28	35
	第6分団			1	1	2	4	35	43
歯舞地区	第7分団			1	1	1	4	32	39
	第8分団			1	1	1	4	32	39
	第9分団			1	1	1	4	32	39
合計		1	3	9	9	11	38	262	333

消防団員勤続年数

(平均15.8年)

階級別 年数		団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員	合計
		1年未満							11
1～5							71	71	
6～10						5	42	47	
11～15						6	39	45	
16～20					4	7	30	41	
21～25			1	2	2	4	22	31	
26～30			4	3	4	11	32	54	
31年以上	1	3	4	4	1	5	15	33	
合計		1	3	9	9	11	38	262	333

消防団員年齢

(平均 45.3 歳)

階級別 年齢	団 長	副 団 長	分 団 長	副分団長	部 長	班 長	団 員	合 計
18～20								
21～25							12	12
26～30							22	22
31～35						1	35	36
36～40							42	42
41～45					1	9	37	47
46～50				2	2	8	47	59
51～55				1	2	8	36	47
56～60		1	5	4	5	8	24	47
61 歳以上	1	2	4	2	1	4	7	21
合 計	1	3	9	9	11	38	262	333

庁 舎 概 要

名 称	所 在 地	構 造	建 面 積 延 面 積	建 築 年 月 日
消防本部・消防署	大正町 1-30	管理棟 (鉄筋コンクリート 2 階建) 車庫棟 (鉄骨造一部 2 階建) 延面積	695.35 m ² 823.26 m ² 1,518.61 m ²	平成 23 年 9 月 30 日
花咲港消防分遣所	花咲港 366-5	木造防火サイディング 2 階建	143.91 m ² 217.62 m ²	平成 7 年 10 月 17 日
厚床消防分遣所	厚床 1-37、38	木造防火サイディング 2 階建	208.38 m ² 278.36 m ²	平成 10 年 11 月 30 日
齒舞消防分遣所	齒舞 4-40	木造防火サイディング 2 階建	217.38 m ² 288.18 m ²	平成 13 年 3 月 26 日
落石消防団員詰所	落石東 391-1	木造防火サイディング 平屋建	77.84 m ² 77.84 m ²	平成 20 年 9 月 18 日

根室市防災ヘリポート

位 置	飛行場の種類	滑走路の強度	面 積
東和田 49-4	陸上ヘリポート (飛行場外離着陸場)	最大離着陸重量 9 t	2,240 m ²

消防職員免許等資格取得状況

区 分		階 級 別		司 令 長	司 令	司 令 補	士 長	副 士 長	消 防 士	合 計
自動車運転 免許	大型免許 (第一種)				4	12	19	3	4	42
	普通免許								12	12
	中型免許 (8t未満)	1			5	4	4		1	15
二級自動車整備士							1			1
自動車整備管理者				1	2	3	2			8
第2種衛生管理者						2				2
小型移動式クレーン運転技能講習					4	9	12	3		28
玉掛技能講習				1	5	9	13	2		30
小型車両系建設機械特別教育 (整地・運搬・積込み及び掘削)					1	5	19	1	11	37
酸素欠乏危険作業主任者					1					1
酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者				1	3	1	3			8
陸上特殊無線技士	第二級				2					2
	第三級				1	4	5		6	16
救急救命士					1	4	4			9
救 急	標準課程					5	19		7	31
	I 課程			1	5	4		1		11
	II 課程				3	3		2		8

消 防 機 械 置 場

番号	名称及び所在地	所属分団	構造及び面積	建築年月日
1	長節地区消防資機材庫 長節 146 番地 11	第 4 分団	木造平屋建 12.15 m ²	昭和 63 年 6 月 24 日
2	幌茂尻地区消防機械置場 幌茂尻 42 番地 5	第 4 分団	木造平屋建 12.15 m ²	昭和 59 年 7 月 6 日
3	温根沼地区消防機械置場 温根沼 48 番地	第 4 分団	木造平屋建 12.15 m ²	昭和 61 年 8 月 14 日
4	浜松地区消防機械置場 浜松 9 番地 15	第 5 分団	木造平屋建 12.15 m ²	昭和 62 年 6 月 16 日
5	昆布盛地区消防機械置場 昆布盛 25 番地	第 5 分団	木造平屋建 12.15 m ²	昭和 54 年 8 月 29 日
6	別当賀地区消防機械置場 別当賀 18 番地 7	第 6 分団	木造平屋建 12.15 m ²	昭和 55 年 10 月 9 日
7	双沖地区消防機械置場 双沖 1 丁目 127 番地	第 7 分団	木造平屋建 12.39 m ²	昭和 49 年 6 月 20 日
8	友知地区消防機械置場 友知 122 番地	第 7 分団	木造平屋建 12.15 m ²	昭和 61 年 8 月 14 日
9	納沙布地区消防資機材庫 納沙布 33 番地 9	第 9 分団	木造平屋建 12.15 m ²	平成元年 8 月 8 日
10	瑤瑤瑠地区消防機械置場 瑤瑤瑠 1 丁目 91 番地	第 9 分団	木造平屋建 12.42 m ²	昭和 48 年 8 月 2 日
11	温根元地区消防機械置場 温根元 107 番地	第 9 分団	木造平屋建 12.15 m ²	昭和 53 年 7 月 20 日